

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00142

研究課題名（和文）ベトナム音楽「ボレロ」再興にみる言語的アイデンティティ

研究課題名（英文）Reflourishment of Bolero, Vietnamese Popular Musics

研究代表者

田原 洋樹（TAHARA, HIROKI）

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：60331138

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：ベトナム戦争終結後にアメリカ移住した第1世代が次々に世を去り、第3世代や第4世代に対してベトナム語やベトナム固有文化をいかに定着させるのかを論じる国際会議で毎年基調講演を行った。最終年度には「異郷のベトナム語」と題する基調講演を提供し、本件研究課題であるボレロ音楽の魅力や学術的価値を語った。旧南ベトナムのベトナム語表現をどのように教育・継承していくべきか、さらにはベトナム本国の言語動態や政府主導の言語教育と、カリフォルニアを主とする在外ベトナム系住民コミュニティ内のベトナム語の関係の捉え方などの論点を提供することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間のほとんどが新型コロナウイルスの世界的感染と重なり、当初予定していた調査活動が十分に実施できなかった。のみならず調査対象であった移民第1世代の音楽家や歌手の感染死もあった。しかし、こうした激動は自らの言語や文化を次世代に継承するスピードを上げるべしという風潮につながり、皮肉ではあるが、ボレロ音楽再興や母語継承という本研究への関心が高まることになった。研究代表者の発言や基調講演は、この流れに乗り、ベトナム系移民の興味関心を惹起して、就中カリフォルニア州南部のベトナム語教育関係者に影響を与えることができた。

なお、本研究の社会的意義について、カリフォルニア州選出の上院議員から表彰を受けた。

研究成果の概要（英文）：After the end of the Vietnam War, the first generation who immigrated to the United States began to pass away one after another. At international conferences discussing how to teach Vietnamese as a heritage language and its culture among the third and fourth generations, PI delivered a keynote address every year. In the final year, He presented a keynote speech titled "Vietnamese Language in a Foreign Land," where he discussed the allure and academic value of Bolero music. He was able to offer perspectives on how to educate and pass on expressions from the former South Vietnamese, how to deal with government-led language education, as well as the relationship between language in the overseas Vietnamese communities, particularly in California, and the language in Vietnam.

研究分野：ベトナム語学

キーワード：ベトナム ポピュラー音楽 ボレロ 母語継承

1. 研究開始当初の背景

申請に先立ち、アメリカ・カリフォルニア州のベトナム系住民らの言語動態観察によって、1975年のベトナム戦争終結を境とするベトナム語の急速な変容を研究、記述してきた。旧ベトナム共和国(いわゆる南ベトナム。75年4月30日のサイゴン陥落で消滅した国家)の言語生活を経験してきた研究協力者の尽力によって研究活動はもとより、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)のベトナム語講義でのゲストレクチャー、カリフォルニア州南部のベトナム語メディアでのインタビュー番組出演を通じて、彼らのベトナム語に興味関心を有している研究者の存在を強くアピールしてきた。また、知識人、報道関係者、作家、歌手など、言語を生業とする多様な人々のベトナム語に接し、表現や文体を観察してきた。この過程で自分たちの言語保存に高い意識と強い意識を持つ一世との信頼関係が醸成できたのは大きな収穫であった。

一連の研究の中で、現在のベトナム本国では禁曲指定を受けている「ボレロ」と呼ばれる75年以前の歌謡曲が大量に存在することが分かった。この「ボレロ」とは、ラテンアメリカからフランス経由で紹介されたタンゴやボレロ一般を指す語である。つまり、西洋音楽のボレロとは異なり、1950年代の旧南ベトナムで流行し始めた tân nhạc すなわち新音楽のひとつで、従来5音階だったベトナム音楽と西洋音楽の融合によるスローテンポな楽曲に情愛豊かな歌詞がのせられているものである。

2010年頃から音楽に対する検閲が緩みはじめ、禁曲指定が解除されるボレロが増えてきた。人気ポップス歌手が「ボレロ」歌手に転向したり、新たな歌い手も登場し、コンサートや小規模のライブハウス、音楽カフェでの歌唱を盛んに行い、「ボレロ」再興の大きなうねりを形成した。そこで、戦中戦後を挟む時間的断絶の中で、「ボレロ」再興に結び付く<伝承>がいかにしてなされたか、という学問的問いが生まれた。

移民第一世代および「ボレロ」を創作した人々の高齢化が進んでいる。2019年2月に知己を得て以来、専門的知見を与えてくれている TRAN Quang Hai 博士は自らが末期癌に侵されていることを明かしたうえで早めの着手を強く勧め、今もベトナムの国民的作曲家のひとりである Lam Phuong 氏は数回の脳梗塞で半身不随の身にありながら、研究への協力を約してくれた。時代を駆けた当事者への聞き取りのチャンスを逸してはならないこと、さらに研究協力者やベトナム系コミュニティの住民たちの万全な協力が得られる目途がついたこと、そして申請者自身が過去3年間に、アレンジや歌手が異なる延べ1千曲の「ボレロ」を聴取して、「ボレロ」音楽の全体像を把握できたことが、研究開始当初の状況である。

2. 研究の目的

ボートでベトナムを出国した人々が異郷で育んだ音楽の種子が、戦後40年を経て本国で開花しつつある現状を見ながら、限界まで高齢化している「ボレロ」作曲家への聞き取りによって、そもそも「ボレロ」とは何なのかを明らかにする。そのうえで、今日の再興に繋がる音楽的軌跡を、歌手や音楽プロデューサーなど伝承の当事者とともに検証する。

他方で、「ボレロ」が発禁と解除を繰り返すのは、曲が持つ音楽的意味合いというよりは、歌詞がまとっている詩性やアイデンティティに「問題がある」からだ。例えば、新音楽の一曲である Con đường xưa em đi (『むかし通った道』)は旧南ベトナムにおいて69年に発表された、恋人を戦場に送った女性の悲恋を歌った国民的名曲で、75年のサイゴン陥落時に「永久禁曲」指定がなされた5曲のひとつである。2008年の解禁に際して大きな議論となったのは「その道はどこに戦場に続いていたのか。どこの軍隊の兵士を見送ったのか」という点である。旧南ベトナム軍はアメリカ傀儡軍であり、かつ国賊であり、これを賛美することは厳禁だし、公の場で懐古することも不適切な行為である。そこで、歌詞の一部を改作したうえで解禁として、オリジナルはベトナム本国内では封印されている。つまり、歌詞の解釈には高度なベトナム語運用能力と合わせて、現代ベトナム史に関する知識が必要で、音楽が内包している共感や共存を可能とする能力、歴史性と同時代性、世界観に着目し、作曲家・歌手・核心的なファン・聴衆を横断的に調査することによって、ベトナム社会の今日的姿を明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

時代背景を踏まえつつ、「ボレロ」の今日の再興に繋がる音楽的軌跡や言語的アイデンティティを、音楽家や歌手、音楽プロデューサーなど伝承の当事者へのインタビューを中心に据える。また、歌唱の現場を大切にするため、コンサートやライブハウスも訪問して、ボレロがどのように息づいているのかを観察し、活写する。

4. 研究成果

日本国内での研究成果としては、田原洋樹『つながるベトナム語会話』(白水社、2022年)、田原洋樹『くわしく知りたいベトナム語文法[改訂版]』(白水社、2023年)がある。いずれも、ベトナム国内の言語動態に限定せず、本研究の成果を生かして、ベトナム語話者の世界的広がりや地理的、歴史的なバラエティを反映しているのが特徴である。いずれも市販書であり、数的な

インパクトは売上データで確認できるが、特筆すべき点として、国内にあるベトナム人コミュニティのベトナム語継承語教室で教材と使用されていることを挙げたい。ポレロをはじめとするベトナムの表象文化や現代社会の様子を生き生きと、しかし極端な政治色を排して中庸な記述を心掛けたことが評価されたのだろう。本研究が在外ベトナム人社会へ与えた質的なインパクトであり、今後いっそう深化させることが期待されているし、その期待に応えていきたい。

国際学会での基調講演は、コロナ禍であったので、オンライン開催のものではあるが、4回実施した。聴衆はアメリカやフランスに在住のベトナム語教育研究者、ベトナム本国のベトナム語教育関係者のほかに、ベトナム公安省の警察官も含まれていて、このテーマに対する関心の高さと政権の問題意識を期せずして知ることとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Hiroki TAHARA
2. 発表標題 Day va hoc tieng Viet tren mien dat la
3. 学会等名 Khoa Su pham Viet Ngu 4 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 TAHARA Hiroki
2. 発表標題 Chang duong di tim "The nao la tieng Viet?"
3. 学会等名 Khoa Su pham Viet Ngu 3 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田原洋樹
2. 発表標題 辞書を編む、語学書を書く
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiroki TAHARA
2. 発表標題 Nguoi Nhat tim den Viet Nam
3. 学会等名 Khoa Su pham Viet Ngu (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroki TAHARA
2. 発表標題 Giang day tieng Vien nhu mot ngoai ngu tai mot truong dai hoc quoc te o Nhat Ban
3. 学会等名 Khoa Su pham Viet Ngu (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 田原 洋樹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 222
3. 書名 つながるベトナム語会話	

1. 著者名 田原 洋樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 231
3. 書名 くわしく知りたいベトナム語文法 [改訂版]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------